

宮原りえ

まちづくり通信

市政レポートNo.36

2020年5月発行

立憲民主党

清瀬市議会議員



COVID-19 新型コロナウイルスの影響が続いています(5月5日現在)。先が見えない中、私も「自治体議員として何ができるか」模索し、市民からの相談を受けて清瀬市に要望をするほか、都内外の議員たちとオンラインでつながって国や都に要望を出したり情報発信に取り組んでいます。経済活動が止まり、この通信がいつ皆さまのお手元に届くか分かりませんが、早く元の生活が戻って来ますよう。皆さま くれぐれもご自愛ください。

緊急市民相談会

☆福本麻紀さん(社会福祉士)に同席いただきます
6月3日(水) 14:00~16:00 (第10回)
6月27日(土) 14:00~16:00 (第11回)
場所:ステップイン(清瀬高校正門前 卓球場)
清瀬市松山2-4-24/ 連絡先090-6165-5715



～宮原りえ、新型コロナウイルス対策の取り組み～

ご相談は電話やメールでもどうぞ!



1) 市内の全検査数の把握と、発熱外来・抗体検査など検査体制の充実を要望。

2) 生活支援

- ◎自粛などの影響で生活に困窮した方々を、速やかに生活保護等の支援につなげることを要望。
- ◎特別定額給付金の申請手続き支援。電子申請手続きの見直しを要望。
- ◎市内のインターネットカフェ休業による「ネットカフェ難民」の把握と支援を要望

3) 休業補償の充実(床面積の緩和)を、立憲民主党都議を通じて要望し、実現。理美容院への休業補償を要望。

4) 「#清瀬エール飯」等の取り組みを要望



5) 保育園について

- ◎登園自粛依頼の「HPでの分かりやすい告知」や「育休延長手続きの簡素化」を実現。
- ◎家庭での保育・育成が難しい場合は安心して預けられる体制を要望。
- ◎休職活動のための保育の期間延長を要望。
- ◎認証保育所の登園自粛に伴う保育料の助成を要望。

6) 長時間の育成となる学童クラブに対し、学校施設の利用や教員によるサポートを実現。

7) 長時間となる放課後等デイサービスへの支援を要望

8) 休校中の子どもたちについて

- ◎給食を食べられない子どもたち(就学援助世帯etc)への弁当の配食&見守りを提案
- ◎小学校一年生への対応を要望
- ◎図書館HPの、子ども向け資料の検索機能の充実
- ◎オンライン授業の実現を要望(特に中3)
- ◎学校から子どもたちへの働きかけの強化を要望
- ◎中高生の居場所を要望

9) 「不妊治療の助成期間の延長」を立憲民主党として要望し、実現。清瀬市民への周知を要望。

10) 妊婦は感染リスクが高いことに加え、訪問等の通常の支援ができなくなっている。支援の拡充を要望。



緊急事態宣言が出た4月初旬、保育園や学童クラブの保護者からSNS上で様々な悲鳴のような声が寄せられ、対応に迫られました。子ども家庭部と何度もやり取りして、電話の最中にも新たな相談が舞い込んだり。調整した結果、登園自粛の手続きに無駄があることが分かり、その簡素化が実現するなど、議員が間に入って対応する必要を再認識しました。

「ツイッターの声をすぐに拾って届けていただける市議会議員の方が清瀬にいらっしゃるなんて、本当に感動しました」と嬉しいお返事をいただくなど、「1人1人の声に寄り添うことが地方議員の仕事なんだ」と実感するとともに、議員が普通の市民にとっては遠い存在だということも痛感。これからは更にアンテナを張って、取り組んでいきます。

宮原りえプロフィール

- ◎1972年福岡生まれ、九州大学法学部(政治学専攻)卒業。中学で卓球部・高校で空手部・大学で合気道部所属3年間商社勤務後、東京大学大学院人文社会系研究科 修士号取得(社会情報学)
- ◎NPO法人Our Planet-TV(インターネット放送局)勤務。◎「ヒバクシャ〜世界の終わりに」「新・あつい壁」など映画配給に従事。 ◎元フェリス女学院大学非常勤講師(映像制作)
- ◎2011年4月清瀬市議会議員選挙に映画の仕事のご縁で民主党より立候補し当選。2018年より立憲民主党/現在3期目。総務文教常任委員長・清瀬市国保運営協議会委員。自治体議員立憲ネットワーク・子育て議員連盟・LGBT議員連盟などで活動 ◎事実婚の夫(別姓で渡部)とともに小学生と中学生を子育て中。第1保育園・七小・竹丘学童クラブ・市保連などで役員として長く活動。
- ◎原発事故後より、放射能から子どもを守る活動に取り組む。主に子育て分野で精力的に活動中。



Mail



Facebook



Twitter



発行元：宮原りえと優しいまちづくりの会

住所：清瀬市松山2-4-20-201 TEL：090-6165-5715

wappoo@ezweb.ne.jp

miya6024@yahoo.co



～12月議会 宮原 一般質問 要旨～

1.ひとり親の支援について

1) シングルファーザーについて

父子家庭は、ひとり親世帯の約1割でその状況は見えにくい。一般的に家事育児の経験値が低く、地域との繋がりが希薄で「周囲に頼れない」など困難を抱えやすい。

非正規雇用が増えているし、育児のため労働時間と収入が減り、キャリアにも影響。所得制限で減免制度や児童扶養手当の対象外となったり、家のローンを1人で抱えるなど「隠れ貧困」も存在する。

困難な状況の発見には学校が重要。母子家庭限定だった各種支援は徐々に父子にも拡充されてきたが、未だ不十分であり、実態とニーズを把握していくことを求める。

2) 養育費や面会交流への取り組みを

養育費を受け取るシングルマザーはわずか24%。2019年5月「改正民事執行法」(元配偶者の財産を差し押さえる「強制執行」で受け取りを保証)が成立し金融機関や市町村等は情報提供の義務が生じる。多くの先進国では養育費や面会交流に行政が介入する。先進市の明石市では取り決めに関わり、養育費の立て替え事業も行っている。

2. 今後の防災について

1) 更に積極的な情報発信を



避難者が650人を超えた台風19号では、SNSなどで情報発信がこまめに行われた。駐車場の混雑状況はメール等、もっと積極的な情報提供が欲しかった。近隣施設の駐車場やコインパーキング等と、災害時の協定を結べないか。

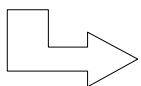
2) インクルーシブ防災

避難所には様々な社会的障壁がある。障害者や高齢者、子連れやホームレスなど、誰も排除しない「インクルーシブ防災」の考え方を、今後の防災計画に取り入れることを求める。

3. パートナーシップ制度導入を求める

伊賀市のパートナーシップ宣誓制度は「ゼロ予算」だが、職員が熱心に取り組んだ結果、様々な当事者が安心できる環境整備につながっている。これまで熱心に取り組んで来たアイレックを拠点に、ぜひ実のある制度導入を。

☆その後、当事者を中心としたグループより出された「パートナーシップ制度創設」を求める陳情が、3月の総務文教常任委員会で採択されました。



～3月議会 宮原 代表質問 要旨～

所信表明について

1. 学童クラブ

◎指定管理者制度の導入の理由は「開所時間が延長でき、補助金の対象となること」だという。会計年度任用職員制度により指導員の処遇改善が実現するはずだが、直営のままでの時間延長の交渉はしたのか。経費削減のための指定管理化ならば、利益を上げるための人件費削減が懸念される。処遇の低下は質の低下を招くため、制度導入には慎重であるべき。導入がやむを得ないならば、処遇と質を維持することを求める。

◎指定管理者制度は、5年毎など事業主体の変更を前提としている。子どもたちにとって、指導員が一斉に変わることは好ましくない。継続して勤務できることを仕様書に盛り込むと同時に、安定して事業を継続できるように、監督・指導を行うことを求める。

◎育成料の見直しについて

保護者の理解を得られるよう誠意ある説明を求める

◎コロナウィルス対策について

休校に際して、学童クラブ(保育園)を開設するほか小学校での預かりも行い、医療従事者など働く親の立場を考慮したことを評価する。預かり事業について更に広く周知することを求める。

また、長時間となる学童クラブは三密や指導員の負担が心配。学校施設の利用や教員によるサポート等、教育と福祉の連携を。(→4月より、学童クラブの子どもたちを午前中 学校で教員が預かる体制に)

2. ネウボラ事業について

2019年9月議会で要望した事業が予算化されたことを評価する。詳細を伺う。

3. 体育館(避難所)のエアコン設置

2017年9月議会で私がいち早く要望した体育館の冷暖房(熱中症対策)が実現する。進捗状況を伺う。



※答弁については、「市議会だより」、または清瀬市HP「清瀬市議会会議録」(いずれも5月中旬)で、ご覧ください。

